



2024年
3月15日

国賠同盟
鳥取県本部
〒682-0701
鳥取県東伯郡
湯梨浜町
宇野 1689
竹中 寿 健
0858-35-3955

第6回理事会報告

2月27日(火)第6回県本部理事会が開催されました。

1、会員拡大・国会請願署名(1月末現在)

*会員 目標380人(現在計 253人)

東部129 中部28 西部96

*個人署名目標4500筆(計305筆)

東部158 中部67 西部80

*団体署名目標330筆(計9筆)

東部0 中部4 西部5

6月の国会請願まで2ヶ月半ほどに迫っているのに、昨年より少ない現状です。各支部の状況に応じて、それぞれの方法でもうひと頑張りしましょう。

「不屈」に署名用紙を折込むとか、会費の集金時にお願ひするとか、団体に要請しているところは回収に回るなど、各支部で工夫して署名を集めましょう。

2、中央本部常任理事会(2月5日)の報告

別紙 吉田万三会長挨拶を掲載。今年4月1回全国大会の年です。同盟の構成員の大半は戦後の世界を生き抜いてきた世代です。次の世代にこの運動をどう引き継いでいくのか、真剣に考えるときです。

来々年2025年は、

治安維持法発行百年の年です。国賠同盟の存在を再定義する時が来ています。併せて、長ずぎると言われてきた名称も粗に上げるでしょう。次の42回全国大会にかけて議論を開始したいと考えています。

3、中国5県の県本部会長、
県事務局局長会議について

日時 3月2日(土)午後1時~3時
場所 出雲市「ビッグハート出雲」

① 2月の常任理事会の議論と具体化についての報告と交流(田中幹夫本務局長報告)

② 10月の「中国ブロック交流会」開催について(島根県から)

③ その他、意見、経験交流など
参加予定者 中村、宅野、水野

4、民主団体との共同 映画『雪道』

*県民ふれあい会館 3月31日(日)
*倉吉未来中心 4月7日(日)
*米子市文化ホール 4月6日(土)

入場料 1000円

鳥取県革新懇は、このほど『雪道』を東・中・西部の三か所で上映会を計画。

私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許すな
一、治安維持法体制の復活に反対する。
二、国は、戦前の治安維持法が人道に反する法律であったことを認めること。
三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

この映画は第二次大戦末期「日本軍慰安婦」として、過酷な運命を共に耐え抜いた二人の少女の友情の物語で、これまでに知られている多くの元慰安婦を含む人々の証言などに基づいたエピソードなどもちりばめられた

一つの真実の物語となっている映画です。ご都合に合わせて鑑賞ください!

5、自治体請願運動について

9月議会を目標に準備します。請願の資料を竹中会長が用意。

6、県本部大会を41回全国大会後の8月中を目標に準備

41回全国大会は6月19~20日

7、国会請願(予定)

5月15日(水)衆議院第一議員会館

求む参加者! 中村まで連絡下さい。

0859(26) 3716

講演会 空はつながる

(低空飛行訓練を考える会)

2月11日鳥取市文化センターにて、標記のような講演会がありました。境港革新懇事務局局長の長尾達也氏が講師で、美保基地の歴史や、最近の様子が聞けて勉強になりました。

日中戦争が第二次世界大戦へと拡大する中、「大陸をにらむ日本海側の防衛拠点が重要不可欠」として、海軍航空隊の基地が作られたとのことです。そして、

昭和18年から20年4月にかけて旧制中学を卒業した予科訓練生が入隊し、特高部隊として基地から多くの若者が戦場に向って飛び立ち命を失いました。

戦後は、連合軍が高尾山にレーダー基地を作り、米軍が美保基地を接収、朝鮮戦争時に連日のように米軍機が飛び立ち、最前線基地の役割を担わされましたが、住民は滑走路の延長、通信基地の造成のための土地収用に反対する運動を展開し、1958年には日本に返還され、その後も日本政府が「ジェット基地化、滑走路延長」などを進めようとしたが、請願署名を有権者の過半数以上集める運動で、境港・米子両市ともに採択されました。

戦いの中で『美保基地許すな(保田睦美氏作曲・作詞)』の歌が生まれ、集会のために歌われ皆の励ましになりました。

闘いの結果、1972年米子空港滑走路の延長の際、防衛省は知事に「美保基地にジェット戦闘機は配置しない」と約束。その後この位置づけは変わっていません。

最近「安保三文書の改訂」でC2輸送機10機配備、戦場に大量の兵器と兵員を運ぶだけでなく、長射程ミサイルを配備する研究が進められています。新型空中給油輸送機も2機配備され(計画は6期)戦闘機が出撃するときは同行し給油するもので米軍機への給油も可能です。

次々と美保基地の軍事強化が進められています。「新しい戦前」にさせないために

私たちの運動も地道に広がっていくことが大切と思いました。(文責 宮内)

2024年2月15日 会長挨拶

中央常任委員会 会長 吉田万三

① 2024年は、正月の能登半島大地震から始まりました。過疎地と言われる地域での大震災は、道路、通信、生活インフラの復旧の遅れも目立ち、いまだに復旧のめどが立ちづらい状況が続いています。

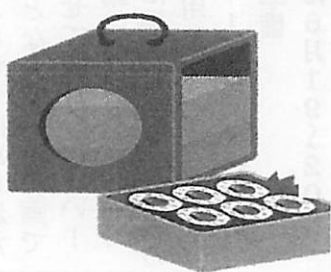
その一方、国民の暮らしがさらに厳しさを増している中でも、社会保障を削減し、大軍拡、大増税、相変わらずの大型開発や大阪万博に突き進む岸田政権の行き詰まりは、目に見えて極限に近づいています。さらに自民党の裏金問題に国民の怒りが渦巻く状況にあり、自公政権に代わる新しい政治的展望を提示する「市民と野党の共闘」による新しい政権が求められています。

私たちはこの新しい政治変革の戦いに合流するとともに、その中で同盟の存在とそ

② 組織拡大のカギは、共に進める行動に裏付けられた、共感の共有です。支部の建設や支部での学習会、歴史施設の見学会、顕彰活動、等々の実践を通じての人間の輪の広がりが大切です。

③ 様々な政治的諸課題、5月の国会請願と共に、今年は41回全国大会を迎える年です。世界と日本が大きな時代の転換期を迎える中で、私たち同盟も否応なく転換期を迎えています。具体的に言えば、同盟構成員の大半は戦後の世界を生き抜いてきた世代です。しかし、個々人の命は永遠ではありません。次の世代にこの運動をどうやって引き継いでいくのかを真剣に考えるときです。

④ これまでも、「治安維持法犠牲者がゼロになるときには同盟はどうなるのか」等々の意見や質問がありました。国賠同盟の再定義を考えるとときです。



俳句

をさむ

冴返る裏金リストの改憲派
木々の芽の被災地和む

仮設の温泉

計報

2月17日、中部支部の西尾昭子さんが逝去されました。謹んで報告致します。長年、県の理事として国賠同盟の運動に貢献されました。